

# ガーリック + 通信



第 31 号 2012. 5. 15 発行

## 第4回科学コミュニケーション研究会 口頭発表、 第47回日本食品照射研究協議会 ポスター発表、 日本原子力学会 関東・甲越支部 知識・技術の普及貢献賞 受賞報告



2011年9月25日(日)、東京大学 小柴ホールで開催されました『第4回科学コミュニケーション研究会』に参加しました。当初は4月9日に行われる予定でしたが、東日本大震災の影響で延期されました。今回は、市川まりこ氏が「好奇心を生かした食品照射の体験実験」、小林泰彦氏は「食品照射と食品の放射能汚染 - 科学の役割と情報提供のあり方 -」という演題でそれぞれ口頭発表を行いました。

また、2011年12月2日(金)には、「第47回 日本食品照射研究協議会」(アルカディア市ヶ谷)で千葉悦子氏が「果物への放射線照射の効果や影響～実りあるリスクコミュニケーションを目指して～」という演題で4分間の口頭発表(ポスターアナウンス)とポスターの前で参加者と意見交換をしました。



そして、日本原子力学会 関東・甲越支部より「新しい形の食品照射のコミュニケーション活動」として原子力知識・技術の普及貢献賞を共同受賞しました。受賞者は、円卓会議から小林泰彦氏、市川まりこ氏、飯塚友子氏、千葉悦子氏、坂上千春氏、北海道教育大学 鶴飼光子氏、(独)農研機構・食品総合研究所等々力節子氏、(独)日本原子力研究 開発機構 菊地正博氏です。

表彰式・発表会、懇親会が2012年4月13日(金) 東京大学 武田ホールで行われ、円卓会議からは市川・

千葉・飯塚の3人が出席しました。



## 『第4回科学コミュニケーション研究会』で口頭発表を行った感想（市川 記）

この研究会の開催趣旨に書いてある「科学に触れてわくわくしたり、どきどきしたり、それを仲間と共有できた時の喜び、そのようなものを私たちは評価したいと考えています。」という言葉に惹かれて応募しました。まさに、円卓会議の食品照射研究グループの活動をそのまま表現しているような気がしたからです。もちろん、楽しいことばかりではありません。真剣に議論したり、たまには、感情的なぎくしゃくもあります。それを上回る、科学に触れるわくわく感があるからです。仲間と共有できた時の喜びも有ります。だからこそ、長く続いているのだと思います。

このような発表という節目は私にとってありがたいものだと思っています。発表の資料を整えるたびに、今までの活動をしっかりと振り返ることができるし、新たな課題が見えてきたりしますから、まさに一石二鳥です。今回、見えてきた課題は、「好事例を増やす」です。コソコソの積み上げ式のリスクコミュニケーションなので、焦らず、確実に好事例を増やして行くにはどうすればよいのか、皆さんと一緒に考えて、ひとつずつ積み上げていきたいと思っています。当日の発表要旨は以下のものでした。

### 演題(1):食品照射と食品の放射能汚染 —科学の役割と情報提供のあり方— (小林泰彦氏)

食品照射とは、食品や農産物に放射線を照射して殺菌、殺虫、芽止めを行う技術である。諸外国では香辛料・ハーブ類や冷凍魚介類の殺菌、ニンニクの芽止め、検疫害虫殺虫などに応用され、様々な照射食品が流通しているが、日本ではジャガイモの芽止めを除いて未だに禁止されたまま、生産者も消費者もその技術の恩恵にあずかれない。

我が国で法整備が進まないのは消費者の理解不足のためという意見がある。食品照射技術の社会受容の妨げとなる消費者の不安を軽減するには、科学コミュニケーションが不可欠であるが、過去の取り組みは成功したとは言えない。人は、知りたいことしか知ろうとしないものであり、「知ってほしいこと」を一方的に伝える働きかけには限界があった。

そこで、「いま知りたいこと」に丁寧に答えるところから始めようと、消費者グループの素朴な好奇心に応える体験実験を進めていた矢先に突然の原発事故。放射線・放射能による健康影響の不安がまさに「一番知りたいこと」になってしまった。専門家の一人としてリスクコミュニケーション活動に明け暮れる毎日の中で、一般の方からは「不安が解消できた」「知識が少なかったため過剰な心配をしていたことがわかり、とてもさっぱりした気分になった」などの感想も多い。正確な情報を元に、放射線のリスクをより冷静に判断できるようになる喜びも、科学コミュニケーションによる幸福の実現ではないか？現在進行形の現場の様子を報告したい。



## 演題(2):好奇心を生かした食品照射の体験実験 (市川まりこ氏)

食のコミュニケーション円卓会議は、大学の公開講座の受講生仲間が呼び掛けて、2006年に結成した消費者団体。「食」に関する問題について、科学的な視点からの実りあるコミュニケーションのあり方を探り、得られた成果を意見や提案・提言などの形で社会に向けて発信している。

私たちは、主要な活動の一つに食品照射のリスクコミュニケーションを取り上げた。日本において、ジャガイモの芽止め照射以外は禁止されており、食品照射という言葉すらひどく嫌われている状況にある。世界の多くの国で許可され実用化されているこの技術について、実際に食品を照射して、その外観の変化、風味・食味の変化を観察した。専門家のアドバイスをもらいながら、科学的に私たちの好奇心をそのまま生かした体験実験を楽しむことができた。そこから得られたものは、食品照射にはメリットがありそうだという実感だった。そして、食品によって向き不向きがあり、線量は多すぎても少なすぎてもダメという事も理解できた。この体験実験を通して科学の面白さの一端に触れたような気がした。

私たちはこの体験をメッセージとして外部の消費者の方々に伝え意見交換する中で、消費者の素朴な不安を軽減する一助となりそうな手応えも感じる事ができた。食品照射について消費者の理解を進めるには、今までの情報提供とは違う、消費者視点からの、科学を楽しく体験したメッセージを伝えることが有用と考えている。



## 『第47回 日本食品照射研究協議会』でポスター発表を行った感想 (千葉 記)

「果物への放射線照射の効果や影響～実りあるリスクコミュニケーションを目指して～」と題して、ポスター発表をしました。日本食品照射研究協議会でのポスター発表は、3回目です。

「継続は力」なのか、食品照射について研究されていた「重陳」の方々が、私のことを覚えていらして、何かと教えてくださいました。「重陳」のお一人によると、世界では今、エビといった水産物と、果物の照射が広まっているということでした。



円卓会議がいろいろな食品について3年間も試して、だいたいの予想がつくだろうから、今後、果物で何か照射の良さが分かりそうなものを選んで、しっかり試してはどうか?と提案されました。私も、試料の調達や材料代の問題等がどうにかなれば、その方向が良さそうと思いました。

お陰様で、ポスターの前に、昨年と比べ、たくさんの方がいらしてくださいました。昨年も、ぶどう・梨・りんご・桃のこともポスターに入っていたのですが、グリーンピースもあって、盛りだくさん過ぎ、

印象が薄まってしまったのかもしれませんが。

また、今年はポスター発表の数が昨年より少なく、ポスタープレゼンテーションの時間が1件当たり3分から4分へと長くなり、スライドの枚数も3枚から4枚になって、詳しく説明出来たので、聴衆が分かりやすく、興味を持ちやすかったのでしょう。

さらに TPP のこともあり、果物の照射は比較的近くなっている感じなどもあって、関心を持ち易かったのかもしれませんが。

私がいわゆる偉い先生ではなく、「強面の男性」とかでないせいか、皆さん気が楽になっているらしく、ポスターの前で独り言なのか、話しかけているのか、判然としないことば一たとえば、「りんごの褐変は・・・」を発したりしていました。そうかと思えば、比較的若くて、礼儀正しい人が、誰もポスター前に居ないのを見計らって、「『あなたは柿が好きですか?』といった質問項目は、案外大事だと思います。」と話されました。そういう細かなことまで注意を払ってくださる人がいるのだと思いました。

私は、今後、果物や香辛料について、もっと試したいと思います。

なお、桃の官能検査等、円卓会議の皆様にご協力頂きまして、ありがとうございます。そして、今後もお知恵も含めてご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



## 原子力知識・技術の普及貢献賞を共同受賞し、ここ3年間で振り返って

(千葉 記)

履歴書にある項目の「賞罰」の「賞」など、私には一生関係ないこととっていました。「支部」とはいえ、立派な金色のメダルを頂け、なんだか恥ずかしく、夢のようでもあります。

少し落ち着いて、ここ3年くらいの私の生活を振り返ると、主婦兼教員としては、かなりのエネルギーを食品照射の実験や発表等に注いできたとも考えられます。本当の研究者なら当然かもしれませんが、楽しそうなお誘いを断り、不義理をしたことも多々ありました。たとえば、高校同期会の知らせを、「ちょっとキザでハンサム」とはこういう人のことかと思うような方からメールで受けましたが、12月開催の日本食品照射研究協議会の発表準備が出来ていない上に、職場でも消費者庁からの研究に追われていて、参加出来ませんでした。また、私の教員生活でたった1回学級担任をした、そのクラスを含む家政科2クラスの会に初めて招かれ、「最初で最後のチャンスかもしれない。あの生徒たちの今の様子を知りたい。」と思いながらも断念しました。さらに、学会発表の日の朝、「母がひどく痛がっている。(たぶん骨粗鬆症の骨折ではないか?)」とメールが義姉から入ったけれど、見舞わなかったので、義姉の神経を逆なでしたに違いないです。

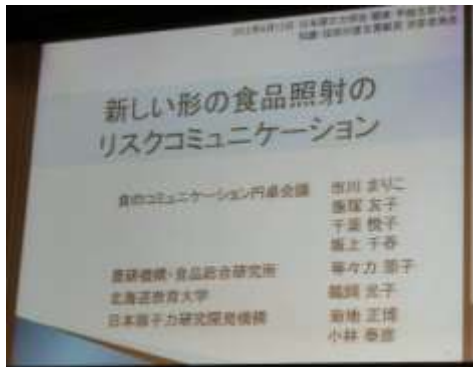
また、お年玉付き年賀葉書の末等が当選しても、「明日でかまわないことは、明日」としているうちに忘れ、期日が過ぎていた、などというたぐいも多々ありまして、家計管理もおざなりです。夫には言えないことばかり・・・

「後ろを振り向いていたら、前に進めそうにない。くよくよするより前進を。体力も知力もない私が、何かしようと思うなら、捨てるものがあるのは仕方がないこと。光りある所、蔭あり。」などと自分に言い聞かせながら過ごして参りました。

けれど、考えようによっては、中年以降、打ち込めることが新たに出てきて、次々新しい出会いや、自分たちなりの新しい発見があるのは、他の人から見たらうらやましいでしょう。学生時代の食物学の友人に「楽しそうじゃない!」と言われました。また、人生の折り返し地点はとっくに過ぎて、ある程度元気に過ごせる年数に限りがあることをひしひし感じるからこそ、したいことをしておこうと思います。

実の母や兄に「疲れ過ぎないように元気でね」と注意され、もっともだと思いながら、今後もしばらくは、食品照射について体験実験等進めていきたいと思っています。

ピンチのところ、いつも円卓会議内外のどなたかに助けられて、これまで参りましたこと、感謝申し上げます。今後も、どうぞよろしく願いいたします。



## これからは、褒める側へ（市川 記）

小学校、中学校では、児童生徒の絵や作文などを良く褒めてくれます。私も頻繁ではありませんが、たまには褒められました。最後に褒められたのは中学3年生の時です。当時住んでいた鹿児島県大隅半島の中学校対抗スピーチ大会で優勝し、優勝旗を学校に持ち帰りました。その時に、中学校から表彰状をもらいました。スピーチというと英語かなと思われるかもしれませんが、日本語です。普段、生粋の鹿児島弁を喋っているので標準語で話す訓練のような意味合いもあったのではないかと、今になって思います。

今回の原子力知識・技術の普及貢献賞は、私にとっては本当に久々の表彰状となりました。個人でなく、共同受賞というところに、感慨深いものを感じています。私たちが行っている、食品照射の体験実験はいろいろな方々の支援とご協力があって初めて成り立つものだからです。そのようなことに感謝しながら、仲間と一緒に一生懸命に楽しんできたことが今回の表彰に繋がったのだろうと思っています。

褒められた時のうれしい気持ちは、人をポジティブに動かす原動力になると言われています。褒められた事をきっかけに、これからは褒める側になりたいと思うようになりました。食のコミュニケーション円卓会議の名前で出す表彰状が、社会をポジティブに動かす原動力に繋がることを願って、「個人や団体を褒める」企画を一緒に考えてみませんか。

## 編集後記

コツコツと積み重ねてきた活動が認められ、ご褒美がいただけたことが嬉しくて当日会場では写真を撮ったり、祝賀会では3人で乾杯したり、美味しいお料理に舌鼓を打ち、すっかり舞い上がっておりました。他の受賞者の方や学会関係者の方々ともたくさんお話することができ、大変充実した時間を過ごすことができました。表彰状をいただけることなど最初で最後かもしれませんが、これからも皆様にご理解・ご協力をいただきながら、一緒に活動を続けていけることを切望します。

たくさんの感謝を込めて、「ガーリック通信 31号」を贈ります。（飯塚 記）